

# 議会だより発行準備特別委員会会議録

(令和5年10月3日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会議会だより発行準備特別委員会会議録

本日の会議 令和5年10月3日(火)  
招集場所 議員協議会室

出席委員

委員長	金 繁 典 子	副委員長	少 林 法 子
委 員	尾 崎 恵 一	委 員	嘉 喜 山 茂
委 員	池 田 栄 次	委 員	吉 田 茂 生

欠席委員

なし

出席委員外議員

議 長 佐々木 史仁

傍聴委員外議員

なし

職務のため出席した者

議会事務局長	本 多 幸 雄	局長補佐	小 松 一 恵
局長補佐	藤 本 吉 信		

本日の委員会に付した案件

- 「議会だよりの発行準備に関する調査研究」
- (1) 愛南町議会議員研修会
  - (2) 令和5年度町村議会広報研修会
  - (3) その他

開 会 13時30分  
閉 会 14時24分

○金繁委員長 皆様、お疲れさまです。

先週は東京に初めて町村議会広報研修会にも参加して、お疲れさまでした。早速始めたいと思います。

今日は、8月8日にここで中村健氏、早稲田大学マニフェスト研究所事務局長の中村健氏に、地域経営に貢献する議会ということで、議会だよりを主に話していただきました。そして先週の東京での広報研修会、それぞれについて皆さんの御感想、御意見、特に今後議会だよりを出していく上でこういうところを、一応今作っている16ページフルカラーですとか、たたき台に振り返って、こういうふうにしたほうが良いと思うというような点がありましたら、ぜひ意見をお願いいたします。順番にお願いしてもいいですかね。

じゃあ、尾崎委員からお願いします。

○尾崎委員 まず、中村教授の8月8日の議会だよりについてということで研修を受けた中で、私自身印象に残っている案件というのがあるんですけども、まず1点は、議会だよりを発行しても、ほとんどの住民が読まれてないのが実態であるというようなことが印象に残っております。発行要領なるものが先に作られて、それに準じて記載していくことになろうかと思うんですけども、発行要領に記載したものに準じてだけでは内容的に面白くないということで読んでくれないのではないかと、結果として議会の一方通行となっている、こういった現状があるようであります。

それと、過去・現在・未来、そういったくくりの中で、議会だよりについては現在と未来に住民の関心が高いと思われます。そこで、議会だよりによこの、現在と未来の部分のポイントに議会だよりというものを出していけばよいのではないかとというようなお話が印象に残っております。

どこでしたか、取手市議会でしたかね、例を出して、ここは1枚のみの紙で発行いたしておりますと、そこに大見出しのみを1枚に掲載してQRコードを付して、関心のある方についてはQRコードをもって、ネットで詳しい内容については閲覧していると。こういった事例も出していただいて研修を受けまして、非常にこれから我々が議会だより、全く白紙の中で取り組んでいく中で、大きな一つの道しるべになったのではないかなと感じております。

それと、東京の研修会につきましては、大人数の中での研修でありまして、3人の講師の方がそれぞれのテーマにお話をいただきましたが、正直言ってあまり印象に残ってはいないんです。資料等は頂いておるんですけども、また、折に触れて見直してみようかなと思っておると、そういった感想です。

○金繁委員長 ありがとうございます。

次に、嘉喜委員お願いします。

○嘉喜山委員 順番的にいきますと、中村先生については、議会の広報広聴の在り方とか作成方法については、話を聞いた中でやっぱり今までのイメージ、概念とはちょっと違うかなというところで、今後やっぱり方向性決める中ではなかなかいい話であったなと思っております。

東京の研修なんですが、まず法律知識に関しては肖像権とかプライバシー権、パブリシティ権、この辺、実際広報を作る中では、どうしてもやっぱり知っておかなければならない内容だと思います。ただ、説明があまりにも専門的で、ちょっと理解しづらい点はあったんですけど、今後これをかみ砕いた研修とか、そういったものは必要かなと。

広報誌づくりの基礎については、やはり磨くべき基本とか、企画編集力、デザイン力、これ確かにそのとおりです。これはウェブ版作るにしても同じことなんで、ここについてもやはり、もう少し掘り下げた研修というか、が必要かなと。

デザインについてもこれも一緒です。ただターゲットを絞るとか、イメージ、ジャンプ力、この辺やはり実際やってみないと分からないというところで、実際やってる人の話だからこれは参考になったというところで、今後やはりどちらの方向に行くのか。例えば、紙ベースであ

ったとしても、その内容をどうする。ウェブ中心に行ったとしても、新しい今時のやり方、こういったものをやはり人の話を聞いた中で取捨選択して、取り組んでいくというところが必要かなと思ってます。

以上です。

○金繁委員長 いいですか、一つ確認して。紙中心かウェブ中心かで方向性決めていくにしても、人の話が必要というのは、人というのは。

○嘉喜山委員 例えば、佐久間さんとか、そういった人も一つの選択肢だろうと思うんやけど、アドバイザー的なものがないとなかなか。また、今の計画でいくと24年の4月からになるけど、ちょっと難しいんじゃないかなとは思ってます。

○金繁委員長 分かりました。

池田委員。

○池田委員 中村先生の話、お話からするといろいろな方法があると、必ずしも10何ページの、20何ページ、20何ページのものを作る必要もないのかな、いろいろちょっとまた議論のあれになるとは思いますが、もうちょっと極端に言えば、最初は簡単なものからまずやってみてという方法も。

とにかく、途中の議論も大切だし、法的なことは当然理解の下でやっていかんといけんの、そこら辺は熟知いうかある程度心得て始めるのも、が大事なんですが、焦ってやってもあれなんです、それをするを前提として、まず作ってみたいとなかなか分からないのではないかな。

それと、いろんなところの事例を出されるんですが、また愛南町は愛南町の独自、特徴いうか人口とか人口比率とかそういうものとか、今までの地域の風土とかそういうものがあるんで、それを十分に考慮したものにしていかなければならないと思います。ウェブ中心が一番、作るほうとしても受け取るほうとしても一番効率的いうか、一番いいとは思いますが、ここみたいに高齢人口が多いところで、それが果たして適切なものか、作り手のことばかり考えてもまたいけないし、受け手のことも考えなければならぬ。果たしてこれはやってみると分らんので、いろんなお話を聞くと、多くの地域でやるとどこでそんな、あんまり読んでもらえてないというのはあるんですが、果たして愛南町でやったら結構読んでもらえることもあるかもしれないということで、そういうことも考慮しなきゃいけないと思うのと、法的なことは、今こういう時代ですんで、個人情報の保護とかそういうことは、もうみんなが、それはみんなが理解してからでないで大変だと思います。

前、ちょっと新聞の取材を見たんですが、かなりこちらから取材をしてくれと言うて依頼があって取材に来たもんでも、かなりの個人情報に関する書類はものすごく作って、もう理解を求めてやっておりますんで、その辺は十分にもっと掘り下げてみんなが理解した上でというのは大事やと、大切だと思いました。

以上です。

○金繁委員長 吉田委員。

○吉田委員 基本的には中村さんが言うように、身の丈に合ったものから作って行って、徐々にしっかりした、みんなが読んでいただける広報にしていきたいと。ただ、難しいところは基本的には多分読んでいただけないってのが、これはもう事実だと思いますんで、ここをどうやって愛南町として、我々が住民の方に見ていただける紙面づくりができるかどうかというところ、情報の内容ですよね。議会で、例えば先ほどありましたように、紙面とそれから紙面でない部分とありますけども、基本的には愛南町の場合開けた議会だと思っておりますんで、それでもまだ視聴が少ないわけですから、ここはなかなか紙ベースの中でQRコードをつけて、詳しく知りたい方についてはそこを見ていただくと、ただ大まかなところで老人が読んでも子供が読んでも分かりやすいタイトルと、それから内容、ここは簡単にかいつまんで記事、紙面にして、そ

の後については詳しい方はQRコードという形で工夫をしながらやっていくべきじゃないかなというふうに思います。

それから、東京の研修については、広報というか法律についてはこれも重要なものなんで、そこはしっかりとしていくことは重要だと思いますけども、あとのところはある面では、何ていうんですかね、広報あいなんが非常に見やすくなってますんで、ここもどういう形でやるのか、そこをちょっと聞きながら、別に外部じゃなくても、我々独自で愛南広報、しっかりしたものを今作ってますんで、紙面も割と分かりやすくなってますし、そういったところも参考にしながら、取りあえず、何ていうんですかね、仮の広報を12月議会終わった段階で少し試し刷りというかね、簡単に我々がまとめて、こういう形でというのもその流れの中ではつくっていかなくちゃまずいのかなというふうに思います。

ただ、あまり外部外部でやっていきますと、プロの紙面で作るわけではないんで、取りあえずそこまでしなくても、外部の人をどうのこうの、コーディネーターをつけるというのは必要ないんじゃないかなと、意見を聞くのはいいんでしょうけどね。

私は以上です。

○金繁委員長 少林副委員長。

○少林副委員長 すみません、それで、研修、ここで行った分なんですけど、一番最初のいろんなデータを見せられましたですね。40代以上は紙媒体のほうが読むぞと、そうすると高齢化50%以上、50%近くだからどうかな。でも若者はインスタの、特にユーチューブだと20代、30代、どこにターゲットを絞るんですかというのをまず言われたなと思います。大変な労力と大金をかけてもなかなか読んでもらえないぞと、これは本当にきつい一言でした。しかも紙紙面になると、どうしても鮮度が落ちてしまうと、過去のことを書くことが多いということで。いろいろ考えんといけんと思ひ、私も形としては、分かりやすい1ページプラスウェブという形もありなのかなというふうに思います。

次に、作り方に関してなんですけれど、先生が強く言われた、まずは広聴、広く聴くですよ、広聴からスタートですよと言われましたので、そこなのかなと、まずはですね、皆さんの。

それから2つ目に、ターゲットをどこにしていこうかと、ピラミッドを出されましたよね。一番下の底辺は何があろうと無関心というのと、一番上の頂点があっても必ず行くという、その真ん中の2つのところをワンランクずつ上げましようということだったので、先ほどの1ページプラスウェブだったら、その辺り全年齢層いくのではないかなと、特に若者向けかなと思います。

次に3つ目ですけど、スタート時からどうにか住民が参画するようなやり方をしていくべきだろうと。先ほどの広聴もですけど、それから表紙を役場の玄関に貼って、どれがいいか投票してもらったとか、いろんな形で関心を持ってもらい、参画してもらおうという方法をぜひ入れんといけんと思ひます。

そして4つ目は、誰かが言いました、未来志向でいこうということです。それを入れていかんといけんと思ひます。

以上です。

○金繁委員長 ありがとうございます。

どういふふうな・・・対照的な意見も出まして、中村先生の、中村先生の示唆された、読まれるものを作るにはこんな方法もありますよということで、QRコードを使って、紙10ページ・・・読まれないというので工夫を、ウェブを使ったりとかいうこともどうですかという話もありましたし、よく言われたのが一番最後の・・・広聴、町民の声を・・・参加してもらおうというところから出発すれば面白いんじゃないかと。町民の一番知りたいのは過去のことじゃなくて現在、特に未来のことだというお話だったかなと思います。皆さんの感想として、そこを肯定的に捉えながらも、愛南町の地域性、高齢者が多いとかというのをどう考慮するのか。

一方で、すぐにもう簡単なもので始めるべきという御意見と、もうちょっと人の話を聞いてから始めるべきというお話がありました。どういうふうに進めますかね。私も、私自身はこれがいいというのは特に今ないんですけど、皆さんと同じように悩んでいるところではあります。簡単なものから始めると言った場合、どうするか。

吉田委員。

○吉田委員 簡単なものというのは、最初は多分そんなに取材ができないんで、基本的には最初はまだもう議会、本当に議会だよりでもいいんじゃないかなと思うんですね。その前に、住民参加のいろいろ意見を聞くというのは、今回こういうの作りますよと、今まで我々が、議会が理事者に対して言ってることと同じように、先に責任を持って説明をして、こういう議会だよりを発行しようと思ってますと、来年4月ですかね。それに向かってどういう内容、どういうことを知りたいのか、そういったまず聞いて、その中で基本的にはじゃあこういう紙面からいきましようかと、そうすれば理解、1回目失敗しても2回目、じゃあこういうことで意見が来るでしょうから、ただできることできないことあるんで、そこはしっかり町民の皆さん、皆さんにも分かっていたらいい、その上で紙面をつくっていくと。当然できないことがありますからね、そこはちょっとしっかりと住民の意見を聞いて、車座でやってもいいしこれはいいんじゃないですかね、委員会の中でやっていけばいいんで、まず町民の意見を聞きながらというのも重要なことじゃないですか。

○金繁委員長 どうですか、皆さん。御意見。視察してきた先も、モニター制度というのをつくって、町民の意見を聞きながら作っているようですが。早速、最初ね、作る前から作ってもいいかもしれませんね。

○吉田委員 公募したらいいんじゃないですか。公募、公募。

○金繁委員長 どうですか、皆さん。

公募の方法は、事務局何か、お考えをお願いします。

吉田委員。

○吉田委員 あれに出せば、広報あいなんに出せばいいんですか、今回こういうのを作るんで、いやいや、議会のあれがでしょう、そのところに、今回そのチラシだけでもいいじゃないですか、1枚。議会だよりを発行しますと、なるべく町民の皆さんの意見を聞きながら発行していきたい、もしくは議会のどういうことを知りたいのか、そういったことをきちっと告知をして、写真に興味ある方がいたらね、表面のあれを撮ってくれるだろうし、物申したい人がいるのであれば物申したい人が出ればいいし、という形の、理事者というプロポーザルをして、一般公募すればいいんじゃないですか。

○金繁委員長 尾崎委員。

○尾崎委員 回覧ならくまなくあれ、地域回るんですけど、あの中に1枚入れて公募したらどうなんでしょうかね。

○金繁委員長 早いですね。可能でしょうか、事務局。

局長、お願いします。

○本多事務局長 休憩しませんか。

○金繁委員長 休憩します。

(休憩)

○金繁委員長 では休憩前に引き続き、会議を再開します。

それでは、今度の19日、10月19日の町民との意見交換会、年齢層も幅広く男女の町民の方が参加くださるということでそのテーマの一つに、議会だよりについて意見をいただくということをテーマにさせていただけるかどうかまだ分かりませんが、今度全協で諮っていただくということでよろしいですかね。

今、取りあえず何らか簡単なものをつくろうということで、この方向に行きましたけれども、

先ほど嘉喜山委員の話で、中村先生がお示しされていた、佐久間さんのお話も聞いてみたいという意見も聞いてみたいという意見もありました。これについてはいかがですか。

はい。

○吉田委員 金額かかるんですね。ちょこっと、1人幾らかってかかるわけでしょ。まあでももう、そこまでしなくてももうある面では、僕はもうそこそこ、自分たちでこうやって考えてみて、いろいろ聞いてるんで、特別な紙面はできないかもしれないですけど、今の段階で、例えば金繁さんだったら記事も書けるだろうし、僕らも校正は、少しは校正ぐらいはできるだろうし、みんなで話し合いながら、手づくりでいいんじゃないかと思うんですけどね。そこまであんまり知識だけ持っても我々プロの編集者ではないんで、編集ではないんで聞くのいいことですけどね、多分我々がついていけないレベルだと思います。だから我々のレベルの中で、レベルの中でですよ、つくったほうが逆に町民には受けていくんじゃないですかね、と思います。

○金繁委員長 どうでしょう。

尾崎委員。

○尾崎委員 佐久間さんの件については、ユーチューブでも関連したものが出とるけん、各自でその辺を検索して閲覧したらええかなと思います。

○金繁委員長 池田委員。

○池田委員 その佐久間さんの件については2人に賛成なんですけど、今、広報あいなんを総務が作りよりもすね。その担当者にちょっとその手順とかいろんなことをほぼ話してもろたら、1回話してもろたら現実的なのというか、いろんな問題もできるし、投げかけることもできるんやないですか。それが結構一番早いというか、そうやないかと思いますが。

○金繁委員長 じゃあ、広報あいなんの御担当の方のお話を聞くというのはどうでしょう、事務局。それは大丈夫ですか。それはお願いするとしたらいつ頃がいいですかね。

はい。

○吉田委員 この件は大体いつでもいいんじゃないすかね、早いほうで。別に2時間3時間かかるわけじゃないんで、早めに詰めてって、形だけ我々つくって、いつ発行するかという準備のどこまではやっぱり早く進めたほうがいいと思うんですね。だらだらしても多分、無理だと思います。

○金繁委員長 じゃあ、広報御担当の今まさに作成の時期に入ってきてるのでお忙しいと思いますが、都合のいいときを聞いていただけますか、事務局。

ということで、佐久間さんのお話はユーチューブで各自が勉強するという御意見出ましたけど、嘉喜山委員がおっしゃったんですけど、どうですか。

○嘉喜山委員 そのユーチューブにでるってことは、考えたら一般的な話しかないんで、僕はそこは賛成できないけど、皆さんが言うなら…。

○金繁委員長 少林委員。

○少林副委員長 お金の問題がさっき言われてましたけど、佐久間さんのオンラインでとかはできるという話を聞いたので、ですよね。私も嘉喜山さんと同じで、質問もしたりできるので、そうだと。一回、もう一回いろいろ勉強したいなというふうな、思ったりします。

○金繁委員長 吉田委員。

○吉田委員 多分、オンラインでやってるのは、幾ら質問しても我々はそのレベルにないんで、多分次元が違うと思うんですね。彼女たちはもう専門のところに行ってるんで、もう初期の段階での多分テーマをぶつけたところで、多分通り一辺倒のことなんで、ちょっとレベルがまだ我々にとってはちょっと高過ぎるような気がしますんで。別にいいんですよ、お金、もしかけてくれってするんだったら僕らも協賛しますけど、それよりは自分たちである面では道をつけていくことのほうが重要じゃないかなとは思いますが。

○金繁委員長 ちなみにすみません、後からになりましたが、佐久間さん、中村先生からね、御紹

介というかお名前をいただいたんですけども、どういう方が簡単に御説明しますと、もともと公務員の方で広報の御担当でした。読まれる人気のある広報を作成されて、自治体広報日本一に輝いたということです。現在は早稲田大学マニフェスト研究所、中村先生と同じところで、自治体や議会の広報アドバイザーを務めておられます。

これは京都で行われた議員・職員のための広報、広聴広報のあり方とデザイン思考というオンラインセミナーのチラシ、事務局に出していただいたんですが、これの内容としては議会の広聴広報とデジタル化デザインの考え方ということで、内容としては議会広報の役割ですとか、先進事例から読み解く住民が主役の議会広報、SNSとかデジタルトランスフォーメーションを活用した広聴広報ですとか、写真撮影のポイントですとか、入り口からテクニカルなことまで幅広くお話しするようにはなっています。全国の自治体、そして議会の広報を研究されているので、ハイレベルなところだけじゃなくて、もちろん入り口のレベルのことも十分御存知でアドバイスただけるかなと私は思いますが。

ちょっと休憩してもよろしいですか。

(休憩)

○**金繁委員長** 休憩前に引き続き、会議再開します。そしたらですね、佐久間先生をすぐにお願ひするというのは難しいようなので、リサーチをね、来年に向けてして、来年度に向けてしていただくということで、可能性は探っていただきつつ、まずは住民の方たちの意見をスタートラインにしっかりやって始めましょうというね、吉田議員の強い、あのね、素晴らしいご意見がありましたので、確かにね、そこから始めるのが広報、広聴、町民の意見を聞いて参画してもらおうことが一番大事だというお話でしたのでね。

中村さんはそれから始めますか。はいはい。

で、同時に広報あいなんの御担当の方に色々教えていただくと、その日程を事務局に調整していただくということでよろしいでしょうか。

はい。じゃあ、また日程調整させてくださいね。

他に決めておくことはないですかね。

吉田委員。

○**吉田委員** いつまでにどうするのかっていうのは。でも、大体スケジュールはぼちぼち決めていかなきゃまずいですよね。で、これはまた特別委員会で閉めて、これは常任になるわけでしょう。広報の。だから、そこはただただ4月とかじゃまずいですよね。どっかで決めなきゃ、その道筋は決めないとまずいですよね。

○**金繁委員長** そうなんでしょうね。で、スケジュールなんですけど、ちょっとさっき出ましたけど、来年の4月頃、来年度から始めるとしたら、予算をね、12月議会で出さないといけないので、それまでに大体の基本的なことを決めて、12議会に報告と予算提出が必要になります。が、厳しいですね。

事務局長お願いします。

○**本多事務局長** まず、予算の関係なんですけども、締め切りがですね、もう12月ぐらいになります。なんで、もしその予算を上げるとすれば、例えば、紙ベースにするのかであるとか、どんな形でするのかっていうのを決めていただかないと、予算計上がまずできません。なんで、そうすると、もうたちまち、11月中までにはですね、その後の内容を決めていただいて、ま、全協なりでそういう方向性をきっちりと決めてもらうという方向にしなくちゃいけないのかなってのが1点あります。で、もう1点が、いわゆる委員会の関係で、この委員会を閉じて、また新しく常任委員会を作るってことなのであれば、委員会条例の改正を3月定例議会上げる必要があります。そういった問題があるので、そこをちょっと目処にですね、スケジュールをちょっと考えていただけたらと思います。

○**金繁委員長** いかがでしょう、皆さんも。まずは広報を作る、原稿は自分たちで書くっていうと

ころが今まで視察してきたところでは多かったんですけど、じゃあそれをレイアウトして、デザインして、で、写真をどうするのか。自分で撮るっていうのもありますし、この前、この中で出たのは、その写真のね、サークルの住民の方の写真を活用させてもらうっていう意見もありましたけど、その編集、そのレイアウトとかをお願いするとしたら、そういう人、業者さんというかね、探すという時間も、そうですね、できればね、町内の方でできる人がいたらいいんですけど…。

少林委員。

○**少林副委員長** 例えばそういうのを思いつけば、その方を、どうしたらいいんでしょう。思いつく人いますけど。

○**金繁委員長** 吉田委員。

○**吉田委員** 多分、個別的にあれするとまずいで、これは公募でしなきゃまずい、今回こういうのを作るんで、こういうレイアウトをしたい方、愛南町の方いらっしやいませんか。それはお金を伴うんで、それは個人的などうのこうのというよりも公募できちっとやらなきゃ駄目でしょうね。

○**金繁委員長** 本多事務局長。

○**本多事務局長** 具体的にですね、例えば予算を計上する場合の話に今絡んでくるんですけども、例えばどういった、何ページの紙のものにするのか、編集について内々でするのか、それとも委託するのか。ということで経費も発生していくものが違います。使用する備品が必要なのか、そういった部分についても検討する必要があります。そうすると、ちょっと11月中にその辺りについて委員会でもまとめて、全員協議会の中で合意を得るとというのがちょっと厳しいのかなという、個人的には思ってるんですけども、そういったスケジュール感で考えていただければと思いますのでよろしくお願いします。

○**金繁委員長** 吉田委員。

○**吉田委員** それについては、広報あいなんのメンバーに聞いて、構成をどうしてるのかと含めて、これは早急にできることなんで、それで大枠をつくって、多分、今の流れでいくと、紙ベースでいかないと多分ついてこれない人たちが多くいて、要するに高齢者が多くいて、やっぱり紙ベースで分かりやすくやっていかないと、進化していけば1枚の広告みたいなんでできるんでしょう。それは多分2、3年先だと思ってるんで。取りあえずはしっかり紙面で、分かりやすい紙面で住民から聞いて、さっきのスケジュールもそれからレイアウトも含めて、今広報あいなんがどうしてレイアウトしてるのかもどうかも含めて聞くと早いと思いますけどね。

○**金繁委員長** 池田委員。

○**池田委員** 事務局に負担をかけて申し訳ないんですけど、今言われたスケジュールをちょっとつくってもらって、どこに何を、いつの時期に何を入れないけんかというのをつくってもらったら、工程表みたいなのをつくってもらったら、もっとやりいいんやないかと思いますが。

○**金繁委員長** 事務局長、お願いします。

○**本多事務局長** まず決めていただくものが、紙でするのか、月何ページ、月というか、年間何回発行するのとか、いわゆるそういった、先般この委員会で決めていただいた編集要領とか、要綱について改めてつくっていただく必要があると思います。それがないと、いわゆる予算取りができない。

今、スケジュールの話でおっしゃいましたが、結局12月中に当初予算が閉まってしまふということがあるので、11月中にそういったものについてはかっちりとしたものをつくって、全協で報告して承諾を得るという、スケジュール、ざくつとしたものなんですけど、スケジュール感になります。

ただ、その話の中で、さっきも言ったように写真であるとかそういったものを編集するものであるとか、そういったことで備品も必要になる可能性がありますので、その部分についても予

算でするようでしたら、まず検討していただく必要あるかなど。あと、さっき言った編集の関係で委託するのかどうかという部分ですよね。

○金繁委員長 池田委員。

○池田委員 くどい話で申し訳ない。今話聞いたんやけど、それはもうベタ打ちでも構わんけん、紙で何月何日に何が要るといふのをちょっと。

○本多事務局長 了解しました。

○金繁委員長 吉田委員。

○吉田委員 まだ紙で16ページぐらいという目安は決まっていなかった。カラーで。

○金繁委員長 一応決まってるんですけど。ただ、この前、中村先生のお話聞く前はそう決めてたんですが、中村先生の御意見を聞いて、1ページね、1ページでいいけど、もっと簡単なものからしたらいいんじゃないですかという話もあったので、それ…、

○吉田委員 だからその簡単なというのは、16ページじゃなくて最初は10ページからスタートしながら、ただ経費は16ページ取りあえず確保しておいて、別に予算を使わない分はいいわけでしょう。カラーで、カラー刷りのほうがあんまり白黒と変わらなかったんで、16ページぐらいで基本は決めとかなきゃまずいでしょう。

○金繁委員長 尾崎委員。

○尾崎委員 16ページ言うたら、本当に事務局が大変になってくるのはもう間違いないので、そうですね、まだ紙一枚で大見出し・小見出しというような形で、QRコードをつけて、それ以上細かいことを見たい人はQRコードからウェブに入ってもらいたいという形が僕はええと思うんですけどね。

○金繁委員長 吉田委員。

○吉田委員 多分ね、尾崎さん、それは難しいと思います。高齢者が多いんで、多分1枚のあれでというのは理想で、僕らはそれでも構わないんですけどね、やっぱり50代、60代、70代の人たち、もしくは50代も含めて見るんだったら多分、紙ベースでやっぱりやらないと難しいような気がしますけどね。将来的には多分1枚でもいいと思うんですけどね。

○金繁委員長 尾崎委員。

○尾崎委員 ただ、10ページにしても16にしても30にしても、1ページも読まん人は読まんという一つの前提があるわけで、シンプルやな。

○金繁委員長 池田委員。

○池田委員 町民の意見を聞くときに、それ聞いたらどがいですか。

○金繁委員長 尾崎委員。

○尾崎委員 今思い出したんですけど、ソフトバンクの孫さん、あの人が、部長級が企画書持ってくるときに、もう2ページになったら最初から読まないらしいです。時間を、1枚にまとめて出してこん限り読まん。そのくらいの徹底をして、シンプルなものをつくれというような、ちょっとそんなところも、これは世界が違いますけど、読んでもらうということに関してはやっぱり見やすいことが一番やないかなということ、1ページがまずいいんじゃないかなと思うんですが。

○金繁委員長 はい。じゃあ、一応基本は紙で。もちろんウェブにね、QRコードつけたりとかいうこともできたらと思いますが、紙のものを出すことは出すと。ただ、それが1ページなのか10ページなのか16ページなのかっていうのは、19日にテーマとして入れてもらえたら、その意見を聞いて、はい、またこの直後ぐらいにできればね、もう話して決めましょう。基本ラインを。で、いいでしょうか。

吉田委員。

○吉田委員 すみません、町民の皆さんに聞くのは、今回報告会をするのとは別に、最後にこういうのを作ろうと思ってるんですが意見どうですかというふうに分けてもらわないと、多分ペテ

ラン議員の人はもう一緒にやれという形になっちゃうと思うんで、そこは分けて聞いたほうが  
いいと思います。

○金繁委員長 はい、そうですね。そうさせていただきます。議長、よろしくお願いします。

はい。じゃあ、だいたい決まったことは、とにかくその住民の関心に沿った面白く見てもら  
えるものを、と。で、過去のことだらだと書くんじゃなくて、現在、特に未来のこと、そ  
のためには住民の意見を聞くことからスタートしましょうと。で、テクニカルなことは広報あ  
いなんの担当の方に日程調整してもらってまず学びましょうと。いうことでよろしいでしょ  
うか。

(「はい」と言う者あり)

○金繁委員長 そして、佐久間さんに関しては来年度の予算ということでリサーチを開始してい  
たくということでもよろしくお願いします。

はい。今日はそれでよろしいでしょうか。はい、お疲れ様でした。ありがとうございました。

委員長